

検討テーマ：「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
防災訓練	<p>○マンネリ化。参加者が少なく、毎回同じ。</p> <p>○防災倉庫や防災備品の整理などハードを中心とした活動が主だった。これからはソフトの部分。組単位の活動が重要だと思う。</p> <p>○小学生のための防災訓練のプログラムを作りたい。</p> <p>○在校時に震災があった場合、中学生男子は避難所準備等の活動に参加させてはどうか。</p> <p>■マンネリ化対策でスモークハウスを借りようとしたが数不足で使用不可。</p> <p>■上岩崎公園で実施するが電源がない。インバーター付き発電機が町内にはなく、沢地の消防団から借りる。何かあった時のために上岩崎公園に電源を確保してもらいたい。</p> <p>■救助用リヤカーや車椅子を購入したくても助成金不足。(救護場所として)中学校で借りられたのは一部屋だけ。ベッドもない。具体的な取組みが必要。</p>	<p>○東北の被災地視察に行った。聞いた事を新しい体制で活かしたい。</p> <p>○PTAの防災学習会の企画は、子どもが全員参加でき、親も多数参加できたので防災への意識が高まり、とてもよい機会だった。</p> <p>○保護者の災害への危機感が足りない。防災訓練に参加し、実際に災害が起きた時の行動を理解してもらふ必要有。</p> <p>■要援護者を地域で救助する意識を持ち始めているので、各団体には協力をお願いしたい。</p>
学校と地域の連携	<p>○中・高校生は大きな戦力なので、できるだけ多く訓練に参加してもらいたい</p> <p>○大学生含めて単身者にもっと積極的に参加してほしい。日大を巻き込むなど、学生にも活躍してもらわないといけないのではないか。</p> <p>○部活動やスポーツ団体等に加入している中学生はなかなか強制参加できない。防災訓練の日程調整が必要。</p>	<p>○参加カードは大変効果的だった。</p> <p>○小・中・高校生が参加すると親が参加して人数が倍になる。</p> <p>○PTAと連携し自治会活動全体を広げていくことが必要。こういう場で意見を出し合い、活動が広がると良い。</p> <p>○中学生は、9月の部活動シーズン中は防災訓練に出にくい。12月初めだとシーズンオフなのでかなり出やすい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	課題	方策
高齢者	<p>○高層階に1人暮らしの高齢者が多くいる。高齢の方々を下までどう運搬するのか勉強中。</p> <p>○災害弱者のサポート体制を、どうしたらよいか。</p> <p>○高齢者世帯が非常に多い。災害時の避難方法、安否確認をどうするかが今年の課題。</p> <p>■民生委員を経験しているが、実際には入院など隠したがる家も多い。民生委員だから情報を何でも知っているわけではない。要援護者に関して民生委員を頼り過ぎるのも酷だと思う。</p> <p>■問題は高層マンション居住者。地域行事への参加意識は低い。高齢者が多数居住していて災害時救護対象だと認識しているが、実際の行動内容は未検討。</p> <p>■高層階の高齢者・単身者の把握が課題。</p>	
顔の見える関係づくり	<p>○地域の人々の関係が希薄。</p> <p>○単身者を把握できていない。災害時、多くの組長が自分の取るべき行動を理解してない。</p> <p>○自治会の実態を自治会長が把握できていない状況。全役員が任期1年なので、わかった頃に交替してしまう。地域住民の方々にどうやって伝えていくかが課題。3役含め組長、リーダーの理解を徹底していきたい。</p> <p>○子ども会や町内会に入っていない方が大勢いて、災害時大混乱する。どう対処するか。</p>	<p>○個人の備え、地域のコミュニケーションが大事。</p> <p>○地域のコミュニケーションはお祭りなどのイベントを通して築いていく。</p> <p>○黄色いハンカチを全世帯分購入し、配布する際に自治会加入の促進を図りたい。</p> <p>○ボランティアと町内会が一体となって、集会室を利用した街中カフェのようなものを来年度進めていきたい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
防災訓練	<p>○防災学習会の継続実施</p> <p>■小学校では市の指定を受け、子どもの発達段階を踏まえた命を守る教育を実施。7/3にPTA主催で防災学習会実施。各自治会など多くの方に先生になってもらい、一次避難所への避難や、自宅からの避難経路の確認を行った。</p> <p>■防災学習会でのアンケートの結果、約半数の家庭が一時避難所を知らない事が判明。災害時の地域での行動がわからない家庭も多く、学習会は好評だった。各自治会によって規模や訓練内容が異なるため、目的を明確にすることと訓練内容が今後の課題。</p> <p>■今年は起震車（雨天のため中止）、炊き出し訓練が中心。炊き出しは子ども会と青年部が担当。参加者約100名（例年40名）と倍増した。参加意義を感じてくれたと思う。</p> <p>■災害時、正確な道路情報取得による迅速な救護活動への取組みを進めている。</p> <p>■組で必ず1名は参加させるなど訓練の啓蒙活動から実施。</p> <p>■魅力ある訓練・楽しく参加できる体制をつくりたい。</p> <p>■「女性の視点での防災対策に対する意見交換会」に参加。女性の視点での東北被災地の声を聞き、乳児がいる家庭の避難所暮らしなど身近な問題を話し合った。</p>	<p>■今回小学生は60名以上の参加があった。小学生の参加カードはたいへん効果的</p> <p>■北小の防災学習会の効果によって、参加者が増えた。</p> <p>■母親からの炊き出し訓練の申し出があり、今年は炊き出しを中心に行った。若い人の参加があったことが望みにつながる。</p> <p>●防災訓練時に笛を実際に吹いて音の認知をしてほしい。高齢者に対して、情報を玄関・冷蔵庫等に貼っておく指導をしているので、紛失しないよう笛はそこに保管してもらおうと思う。</p> <p>■消火器や救護等の基本訓練は毎年実施すべき。各組長に要援護者リストを渡してある。訓練時リストをもとに不在確認（安否確認）を実施。</p> <p>■前回の訓練からパソコン等を活用し、参加者の人数や割合がその場でわかるようにした。</p> <p>■北小学校が避難所なので、隣接する幼稚園で授乳場所の提供などできることがある。</p> <p>●各町内で防災訓練時の保健委員の役割をぜひ考えてほしい。</p>

(○：前回までの意見、■：今回出た意見、●：市長の発言)

	当面の取組み	取組みの担い手／アイデア
学校と地域の連携	<p>○小・中・高・大学生の訓練参加者を増やす。</p> <p>■中学では、教頭から担任に訓練日時を伝え、なるべく生徒へ参加を呼び掛けている。生徒たちへの訓練参加の呼び掛けを継続していきたい。</p>	
高齢者	<p>○高齢者数など状況把握</p> <p>●要援護者を誰が救出するか各自治会で考えてほしい。旭ヶ丘や芙蓉台が参考になる。</p> <p>■名簿をもらったが使用方法・要援護者救助方法等一切指導がない。名簿の活用方法をもう少しPRしてほしい。</p> <p>■個別台帳を作ろうとしたが、今の人は個人情報を出したがる。世帯台帳も世帯主と子どもの名前程度の内容。他町内の要援護者リストの管理方法を知りたい。</p>	<p>(要援護者リスト管理方法について)</p> <p>■世帯台帳に要援護者リストを添付予定。要援護者リストと個別台帳は、別の場所に保管。個別台帳は防災倉庫の一角に置く予定。非常時に対応するため、自治会長他数名は個々の情報把握が必要。</p> <p>■要援護者担当にコピーを渡している。リストは町内のファイルに入っている。ほぼ近所で把握しているような内容なので管理はそれほど問題ないという認識。</p>
顔の見える関係づくり	<p>○自治会加入者を増やす。</p> <p>■子ども会（43名）をスカイツリー・上野公園に連れて行くなどの交流を実施。</p> <p>■北中に伺った際、以前は無かったあいさつが生徒からあり、嬉しかった。積極的にあいさつできる環境がきずなづくりにつながる。あいさつ・声かけは町内でもとても大事。</p>	<p>○自治会が黄色いハンカチの配布時に、加入促進。</p> <p>■スマートウェルネスの講演会に参加。日ごろの町内の交流（あいさつ・声かけ）や住民情報が、孤立を防ぎ、健康につながるという非常に役立つ内容を聞いた。</p>